

インタビュー「ごちゃまぜな人」第3回

猪狩 僅 さん

いわき市職員／いわき市保健福祉部地域包括ケア推進課



猪狩 僅 (いがり・りょう)

1978年いわき市四倉町生まれ。磐城高校、明治学院大学へ。卒業後、2000～2001年まで1年間、ブラジルのリオグランデ・ド・スル州に留学。2002年入庁。入庁後は、水道局、公園緑地課、財政課、行政経営課を経て現職。

## 高齢者福祉から、いわきを面白く

私たちの「地域包括ケア推進課」は、一言で言えば「高齢者にいつまでも元気でいてもらう」ことを目指す部署です。医療も介護も、買い物なども、市内のそれぞれの各町で完結でき、不自由なく暮らせるような仕組みを作ると。自分の意思で人生を終えられる当たり前の暮らしを取り戻そうということでもあります。

ぼくが今、着目しているのが、いわき市の元気な高齢者の皆さんです。いわき市には65歳以上の方がおよそ9万人暮らしています。そのうち6万人の方は、日々の暮らしに大きな障害はなく、支援を必要としないません。

この6万人の超元気な皆さんに、そのまま超元気でいてもらいたいがら、少しづつ手を借りて、助けが必要な高齢者を支えていくことはできないだろうかと、今そんなことを模索しています。つまり、市民が主体になり、元気な高齢者を巻き込みながら、地域全体で高齢者を支えていくような社会です。

これから一気に、ぼくたちの親世代が75歳になります。病院のベッドも老人ホームも足りなくなる。料金もあがり、みんなが気軽にヘルパーをお願いしたりすることは難しくなってくるでしょう。病院や施設の負担も増しますし、充実したサービスを受けられなくなるかもしれません。そうなる前に、地域全体で高齢者を支える仕組みを作つておかないといけないという危機感はありますね。

身近なローカルのところで、小さくてもいいから草の根から始まって、なぜか小名浜の高齢者はすげえ楽しい小さなとか、湯本の高齢者は生き生きしてるのがいいじゃないですか。ぼくら世代は、デザインやアイデアの力で、面白いや楽しい、やってみようと思っています。

超ごちゃまぜで、どんな立場の人も、みんな一緒にチームを組んで、一緒にご飯を食べたり、歌を歌ったり、言葉を交わしたり、そんなことを通じて、お互いの立場を尊重したり認め合ったり、地域の差を楽しみ合つたり。つまり、真にごちゃまぜの、多様性を認め合ういわきになつていくんだと思います。

いわきから「ごちゃまぜ」あらゆる障がいのない社会へ

# GOCHAMAZE times

特集

ソーシャルデザインワークスNPO化

vol.3

2017 winter

TalkSession

北山剛 × 佐藤有佳里 × 宮本英実

GOCHAMAZE REPORT

ごちゃまぜ音楽イベント

Interview

猪狩僚さん(いわき市職員)



## ↖ NPOになって、ソーシャルデザインワークスはこう変わります！ ↘

-POINT- 多様になった  
運営参画

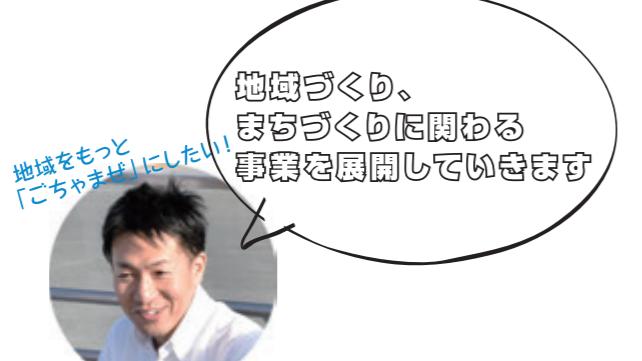


NPO化により、寄付、ボランティア、賛助会員、正会員など、皆さん多様な形で法人運営に関われるようになります。皆さんのやりたいこと、実現したい思いを、ぜひソーシャルデザインワークスにぶつけてください。NPO化にあたり、ニューヨークで活躍するアクティビストの宮本英実さんに理事の1人として参加頂くことになりました。世界で一番「ごちゃまぜ」な町から、様々な提言・アドバイス、情報発信をして頂きます。ご期待下さい。

■Profile 理事|宮本英実(みやもと・ひでみ)

1984年福島県いわき市小名浜生まれ、ニューヨーク在住。地域活性化団体MUSUBU代表。音楽プロジェクトでマネージメント、レコード会社・ピクターエンタテインメントでジャーナリストのプロモーション全般を経験。2011年東日本大震災後、いわき市を拠点に地域活性化団体「MUSUBU」を設立。地域に「ワクワク」を生み出すことをモットーに、様々なイベント・プロジェクトを開催。同時にヨリフーランスとしての活動を開始。エンタテインメント関連の企画・制作、コーディネートに加え、地域企業の広報・PRも行う。中高生向けのグローバルキャリア教育プログラム「Good Try Japan」のシリコンバレーへの携わる。

-POINT- 地域づくり事業の  
強化

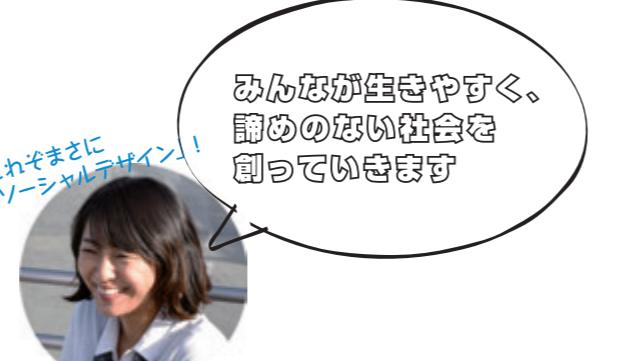


株式会社時代から展開してきた「ごちゃまぜイベント」を今後さらに多様化、進化させ、地域づくりを念頭に置いた事業を展開していきます。NPO化により自治体が推進するまちづくり事業にも参画できるようになり、助成金の活用も可能。イベントにおける予算規模も拡大します。私たちが展開するイベントだけでなく、すでに地域で活躍中の皆さんとの「コラボイベント」も、今後積極的に展開していく予定です。地域をもっと「ごちゃまぜ」に！

■Profile 代表理事|北山剛(きたやま・つよし)

福島県富岡町出身。小学2年生の時に町の手話サークルに通い始めたことをきっかけに「福祉」や「手話」という言葉に興味をもつようになる。学齢期には障害者と言われる方と健常者と呼ばれる人々の社会的な待遇の差に違和感を感じながら過ごし、専門学校では手話通訳や福祉を学ぶ。卒業後は聴こえない方専門のソフトバンク渋谷手話カウンターで携帯電話の販売やアフターケアを中心に行き、リタリコジョニアにて療育を経験し現在の就労移行支援や生活訓練の現場に携わりながら地域を「ごちゃまぜ」に、誰もが生きやすい社会の創造を目指し活動中。学生時代には陸上の七種競技を専門にしており、今でも身体を動かすことが好き。

-POINT- ソーシャルデザインの  
推進



私たちの法人名「ソーシャルデザインワークス」とは、「諦めのない社会をデザインしたい」という思いから生まれました。諦めのない社会とは、障がいのない社会ではありません。社会に生きるすべての人々に向けられた言葉です。ごちゃまぜイベントの地域化、法人参画の多様化により、地域の皆さんとともに、より強力に「ソーシャルデザイン」を推進できる組織を作っています。ぜひ、私たちの仲間に加わって下さい！

■Profile 副代表理事|佐藤有佳里(さとう・ゆかり)

福島県富岡町出身。小学2年生の時に町の手話サークルに通い始めたことをきっかけに「福祉」や「手話」という言葉に興味をもつようになる。学齢期には障害者と言われる方と健常者と呼ばれる人々の社会的な待遇の差に違和感を感じながら過ごし、専門学校では手話通訳や福祉を学ぶ。卒業後は聴こえない方専門のソフトバンク渋谷手話カウンターで携帯電話の販売やアフターケアを中心に行き、リタリコジョニアにて療育を経験し現在の就労移行支援や生活訓練の現場に携わりながら地域を「ごちゃまぜ」に、誰もが生きやすい社会の創造を目指し活動中。学生時代には陸上の七種競技を専門にしており、今でも身体を動かすことが好き。

三  
理  
事  
鼎  
談

# ソーシャルデザインワークス NPO化 北山剛 × 佐藤有佳里 × 宮本英実

株式会社の創立から3年。障がいのある方たちの就労支援を行なってきたソーシャルデザインワークスが、なぜ今、NPOとしての再出発なのか。理事として参画頂く、アクティビストの宮本英実さんを迎える、代表理事の北山、そして副代表理事の佐藤とともに、これからのビジョンを語りました。(聞き手:小松理恵)

- 今回、ソーシャルデザインワークスがNPO法人になりました。業務が大きく変わるのは、ということは伺いましたが、なぜ、このタイミングで「NPO」になったんでしょうか。

北山 会社で活躍している社員が自分の仕事に誇りを持って、伸び伸びと仕事ができる環境を整えてあげたいというのを一番でした。これまで以上に地域と共に動いていくという時、今の日本は、株式会社よりもNPO法人に対する助成制度が充実していますし、非営利ということが信頼を生むことがあります。つまりNPOの方が、断然色々なことができて、社会から評価して頂けるのではないか、ということなんですね。

- 今回のNPO化では、参画の多様化も大きなテーマです。理事の1人として、外部、しかもニューヨークから宮本英実さんが関わることになりました。

北山 純粋に、僕たちのやっていきたい

ビジョンを実現する速度をさらに加速させるための原動力になってくれると直感していました。直接的に法人の運営に関わってもらうことで、世界で最もごちゃまぜな都市であるニューヨークの、真のごちゃまぜ精神のようなものを注入してもらおうのではないかと思っています。



宮本 私も以前から北山さんと何かがしたいなって思っていたんです。北山さんがこれからやろうとしていること、私がこれからやっていきたいことが共通していたからです。北山さんは障害福祉から社会を変えようとしているけれど、私もずっと、エンタテインメントのパワーを通じて、世の中に何か刺激を与えるべきだと思ってきました。私は障害福祉の分野は全く

外に対する働きかけや発信、話したり伝えたりという対話の場を作ることは重要です。その辺りが、私に期待されているところだと思いますし、私がやりたいことでもあるんですよね。

北山 様々なバックボーンを持つ人が集まれば、小さくともそこに社会が生まれて、それは地域と接続されています。



北山 もう一つの会社だけができるところへ限られていて、僕たちの仕事はどんどん「地域づくり」に深く関わるようになっていくわけです。そんなとき、社員になるか株主になるか、ボランティアになるかくらい

しか選択肢がない株式会社よりも、色々な参画の仕組みのあるNPOの方が、より地域に開かれた法人になれます。だから

の素人ですが、ごちゃまぜイベントの企画など、地域と関わる事業の方でお手伝いができると思っています。

北山 宮本さんには、本場のごちゃまぜにめっちゃ期待してるんです。

宮本 ニューヨークでは「違う」ということが社会の大前提ですから。見た目にも、それぞれのルーツもバラバラで、違いを認め合うということが基本です。でも、そこで思うのは、ニューヨークでは「ごちゃまぜ」なんて言葉を使わなくてもいい状態になっているということ。だから、私たちだって「ごちゃまぜ」なんて言葉を使わなくていいようになるのが理想です。

佐藤 「障がい」という言葉も同じですよね。「障がいのない社会を作ろう」とか良く言われますけど、本来は「障がい」という言葉が必要ない社会を目指さなければならぬわけですよね。でもそれを使わないと、どこに問題があるのか理解

宮本 そこに暮らす人たちが、夢を実現でき、暮らしやすい地域を作る・・・。これってつまり「ソーシャルデザイン」ってことですね。みんなが暮らしやすい地域社会をデザインしていく会社。NPOになる必要があった、ということなんです。

北山 なるほどよくわかります。NPO化は、地域と共に生きるという決意表明であると。



北山 そうですね。障がいを持つ人たちにとって暮らしやすい社会は、みんなが暮らしやすい社会になるはずです。「ユニバーサルデザイン」もそうですよね。例えば電光掲示板のアナウンスは聽こえない人にとって大事なものが、大音量で音楽を聞きたい人にとっても便利ですよね。

北山 地域の人たちの夢や目標のお手伝いをしたり、不安や心配に寄り添うこともまた、みんなが暮らしやすい地域にするということに繋がります。これからは、地域で何かを始めたい、こんな課題を解決したいという目標を持つ人たちを応援して、コラボしていきたいんです。



# ごちゃまぜ 音楽イベント

みんなで楽器を作って!  
みんなで音を奏でよう!



ごちゃまぜプランナー  
松岡 真満

今回のごちゃまぜイベントは音楽!  
いわきの伝統芸能「じゃんがら念佛踊り」とも  
ゆかりがあるとされる沖縄の伝統芸能「エイサー」。  
そのエイサーで使われる打楽器「パーランク」をみんなで作って、  
それで音を奏でて遊んじゃおうというのが今回のイベントの主旨。  
ごちゃまぜイベント史上最多となる 85 名志の方に参加頂きました!

**ごちゃまぜイベントレビュー**  
わたしたちが目指す、あらゆる障がいのない「ごちゃまぜ」の社会。その価値観を、1人でも多くの人たちに感じてもらいたい。そんな思いで、定期的に「ごちゃまぜイベント」を開催しています。このコーナーでは、印象的だったごちゃまぜイベントを1つ取り上げ、イベントの模様を紹介していきます。

## ごちゃまぜ Report

今回ごちゃまぜイベントの題材として選ばれたのが「パーランク」という打楽器。エイサーで使う片張りの太鼓です。素材が白いので、色を塗ったり、シールを貼ったりと工作しやすく、とてもワークショップ向き。実はこのパーランクづくり、もともとは、神奈川県でダウン症のある人との交流事業を展開している一般社団法人「ヨコハマプロジェクト」が行っていたものなんです。

ごちゃまぜプランナーの松岡真満が、以前、ヨコハマプロジェクトのワークショップに参加したことがあります、その面白さに感銘を受けたのがきっかけでした。そこで、同プロジェクトの代表、近藤寛子さんたちに助けを求め、ヨコハマプロジェクトからパーランクの元素材を提供頂け

ることになったのです。快くコラボを引き受けてくれた近藤さん。本当にありがとうございます。

そして、今回は会場にもこだわりが。会場として協力頂いたいわき市平の寺院「菩提院」は、エイサーのルーツともいわれる「じゃんがら念佛踊り」に深く関わりのある寺院として知られています。

というのも、この菩提院を開いた袋中上人というお坊さんがじゃんがらを創設したという説があります。袋中上人は明国に渡ろうとするも上陸が許されず、辿り着いた琉球で淨土宗を布教したという経歴がありますが、淨土宗とともに念佛踊りを伝え、それが沖縄のエイサーの成立に大きな影響を与えたという説があります。

いわきのごちゃまぜ。横浜のパーランクワークショップ。そしてじゃんがら念佛踊りとエイサー。いわきと沖縄のつながり。国籍や性別、年齢、障がいの有無だけでなく、地域や歴史までもが「ごちゃまぜ」になった今回のイベント。多くの皆さんのが協力を頂きながら、様々なご縁と出会いによって奇跡的に開催されました。

今回のイベントでは、いわき市出身で東京音楽大学に通う大学生、福島高専や磐城高校の生徒たちも企画段階から関わってくれていました。学生や生徒たちはいずれも楽器演奏や声楽に関わる皆さん。当日もミニコンサートや音楽ワークショップを開催してくれました。作る楽しみ、聞く楽しみ、そして演奏する楽しみ。

音の楽しみに溢れたごちゃまぜイベントとなりました。

一つひとつの音が重なり、混じり合って一つのハーモニーやオーケストラになるように、音楽の調和というのは一つひとつの音の集合体です。ごちゃまぜの音、その一つひとつは個別のものなのに、全体に楽団のような統一感が生まれ、みんなの「楽しい」という感情が、さらにその統一感を心地よいものにしてくれる。ごちゃまぜというコンセプトと音楽、その相性の良さを感じることができました。

ソーシャルデザインワークスでは、ほぼ毎月、ごちゃまぜイベントを企画しています。イベントの情報などについては、わたしたちのフェイスブックをご覧下さい。

## コラボメンバーから



東京音楽大学 ピアノ専攻  
会田 紗織さん

パーランクを作って遊んで、気づいたらみんなで1つの音楽を奏でていて。私自身とても楽しかったです!私は音楽って「人と人がつながる1つの手段」だと思っています。まさにそれを実感できたイベントでした。素敵なお経験をありがとうございました。



東京音楽大学 ピアノ専攻  
小山 貴代里さん

いわき市で音楽を通して子供達と関わることが出来たことが本当にいい経験でした!そして日本の伝統であるエイサーのパーランクをアレンジして音を出し踊るという事が子供達にとって良い影響となればいいなと心から思いました!関わらせていただき感謝です!



ヨコハマプロジェクト 代表  
近藤 寛子さん

私たちは、福祉作業所で作成された道具を使って、アートや演奏を楽しむワークショップを企画運営しています。ソーシャルデザインワークスさんと協働することで、いわきでの開催となり、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。



菩提院 副住職  
黒木 真康さん

エイサーゆかりの地でもある菩提院で、このようなイベントが開催されたことは大きな喜びです。人々のあらゆる違いは宝物で、みな平等に幸せを求めるということは仏教の教えもあります。今後も『ごちゃまぜ』な社会をみんなで目指しましょう。

**workshop1**

ダンボールで作ったオリジナルパーランクにシールや絵の具、デコレーショングッズを使って、思い思いにデザイン!

**みんなでパーランクづくり**

**workshop2**

空のガチャガチャのカプセルを作って、マラカス作り。ちょっと寒いけど外にてて、石を拾ってカプセルにIN! シールも貼って可愛くアレンジ!

**Music Festival**

音楽を学んでいる有志の学生がイベントに参加!彼らのミニコンサートを聴いたのち、みんなが作ったパーランクとマラカスで1日の限りの音楽隊を結成!

**オリジナルパーランク作品集**

## ～ソーシャルスクエアから～

障害福祉サービス事業所ソーシャルスクエアで行われているカリキュラム、取り組みを紹介！



### ストレスコントロールプログラム

現代社会では避けて通れない「ストレス」。ストレスと上手に付き合っていく方法を学ぶのが、「ストレスコントロールプログラム」です。ストレスのメカニズム編、ストレスサインと対処法編、アサーティブな自己表現編と、全3編に分けて、自分のコミュニケーションを客観視し、改善していくカリキュラムです。

アサーティブな自己表現についてのカリキュラムでは、相手も尊重した上で、誠実に、率直に、対等に、自分の要望や意見を相手に伝えるコミュニケーションを学びます。具体的には、アサーティブ・トレーニングを使って実践的なロールプレイをくり返しながら、自分の要求と感情を適切に表現する方法を身につけていきます。

例えば、上司からご飯に誘われたけど、今日は行きたくないという時、「嫌です、断ります」というのと、「お誘いいただき有難うございます。ただ、今日は都合がつかず難しいです。また機会がありましたら誘ってください」というのとでは、相手の印象が大きく異なります。自分自身がいつ、どんな状況で、どういったコミュニケーションを取っているかを見つめ直し、相手のことを無視したり、自分を無視したりしてしまがちなタイミングを自分で把握していきます。そのタイミングを知って気をつけるだけでも、余裕が生まれ、ストレスを減らすことができます。みなさんもぜひ普段のコミュニケーションスタイルを見直してみてはどうでしょうか。



事業所見学、体験利用など、随時、開催しております。

**お気軽にご相談ください。**

#### information いわき店

Tel | 0246-84-8301

Fax | 0246-84-8302

Mail | ss\_iwaki@sdws.jp

#### 西宮



### ソーシャルスクエア西宮店オープン準備中！

私たちが展開する「SOCIALSQUARE」の2号店が、兵庫県西宮市で、オープンのため準備を進めています。1号店であるいわき店が「カフェスペース」をイメージしているのに対し、西宮店のイメージは大学にある「ゼミ室」。来られた方が、互いに学びあうような雰囲気の中で自発的に活動する場所、目的の一致する仲間とともにグループを形成していくような場所を目指しています。

昨今、各地に就労移行支援事業所が増えましたが、まだそこに行きつくことができない潜在的なニーズのある方々も地域の中には多くいます。1つの例が学生たち。入学から環境の変化で、友人たちに馴染めない、夢を描けない、自信を持てないといった様々な理由から、精神の不調をきたしてしまうことが少なくありません。そんな学生たちができるだけ「キャンパス」に近い場所で、教育と福祉が連動しながらサポートしていく。そんな事業にも力を入れていきたいと考えています。

もちろん、学生だけではありません。大学や自治体と連携した支援チームが形成できれば、地域の中に埋没しがちな「潜在的要支援者」にも効果的な支援を行うことができるようになるはずです。西宮店は、地域からこぼれ落ちそうな人たちを救える場所でありたいと思いますし、そのための知見やネットワークを広げるゼミ室にしていきたいと考えています。オープニングスタッフも募集中。私たちと一緒に活動していきませんか？

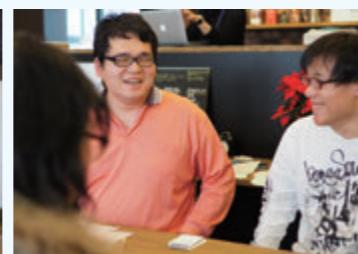
**ソーシャルスクエア**とは、社会と現在の自分を結ぶための広場を創造することをコンセプトに、障害者総合支援法に則った障害福祉サービスを提供している福祉事業所です。障害特性への理解がある支援クルーにより、生活習慣の見直しや働くためのスキル習得など様々なニーズの方にご利用いただける環境を整えています。**就労移行支援**とは、体調管理、コミュニケーション訓練、職業訓練、生活相談などの支援を受けながら支援クルーと一緒に就職と、その後の職場定着を目指していく場所です。**自立訓練（生活訓練）**とは、リラックスできるサードプレイスとして、さまざまな活動を通じ、心に栄養と生活リズムを整え、活力ある人生に一歩づつ踏み出していく場所です。



実習を通して働く準備を



人生に楽しみを増やしていく



気軽に相談できる場所

詳しい情報は  
「ソーシャルスクエア」で検索

#### information 西宮店

Tel | 090-8377-4839

Fax | 050-3153-3546

Mail | ss\_nishinomiya@sdws.jp



## グリーンバード IWAKIteam 通信 keep clean, keep green. green bird

2017年もアクセル全開で活動予定のいわきチーム！  
2016年の活動を振り返りつつ、  
新年一発目の活動報告をしたいと思います！

### 2016年の振り返り Part1

チームリーダーのわたくし、松岡が茨城県つくばチームに参加して参りました！リーダー同士だけでなく、他チーム参加者の方と交流し、「グリーンバードに参加したきっかけは？」、「なんで継続して参加したいと思ったの？」などリアルな声を聞くことで、いわきチームにも還元できる事あるかも？なんて、とても勉強になりました！これからも時間の許す限り、他チームにも参加していきたいと思います！

### 2016年の振り返り Part2

いわきにも店舗がある、あのWonder Gooさんとコラボおそうじをしました！なんと6名の社員さんが来てくださいましたね。今回の活動がきっかけで、コラボバードという単語がさらに派生して、企業コラボバードという言葉まで誕生しました（笑）実は、現在 Wonder Gooさんと、あるプロジェクトを遂行させて頂いておりまして…。これはまた次号で発表できればと思っておりますので、乞うご期待☆

### 2017年最初の活動

新年最初の活動はいわき駅おそうじ。約1時間ほどで、残念ながらあっという間にゴミ袋がパンパンになり、大量のゴミが集まってしまいました…。27名の参加者同士で会話を楽しみながら、そして時折、まちを歩く方から、「ご苦労様～おそうじありがとうございます！」と声をかけて頂けることもあり、励みになりました。いわき駅周辺はまだまだおそうじする甲斐がありますので、今後も活動を続けていきます！

### greenbird いわきチームとは？

私たちは、まちをかっこよく！きれいにするためにゴミ拾い活動、もちろん全力で行います。しかし、それ以上に大事にしているのは、この活動をきっかけに、新たなコミュニティが生まれ、それが徐々に「地域に根付くコミュニティ」として成長していくことです。その地域に住んでいる国籍も、性別も、年齢も、障がいの有無一切関係なく、多種多様な方々と一緒に活動し、何気ない会話をする場を作っていく事も地域に根付き、地域から応援される一歩になるのではと感じています。

### 編集後記

『ごちゃまぜ』この言葉を子どもも大人もみんなが使ってくれたら嬉しいなあ。と思いつながら、日々口にしていましたが、少しづつみなさんが使ってくれている！と実感しています。タブロイドの発行を重ねるたびに、ごちゃまぜイベントページがどんどん賑やかになっていっていますね。それだけ参加者の数が増えているということでもあるんだなーと素直に嬉しく思っています。

そして今回は参加者だけでなく、企画側

も『ごちゃまぜ』となりイベントに向けて準備を進めてきました。バックボーンがそれぞれ違う人が集まつたからこそ、『あーなるほど！それ面白い！』とアイデアが次々と生まれ、様々なコンテンツをイベントに盛り込むことができました。これからもみんなで創るごちゃまぜイベント。地域にインパクトを与えていけるようにどんどん進化を続けていきたいと思っています！

企画 | 松岡真満

今回も GOCHAMAZETimes を読んで頂き、ありがとうございます！デザイナーとしては、まだまだ未熟な自分がいますが、毎回タブロイドのデザインをすることによって、幅広く経験が出来ていることをやり難く思います。デザインを続ける中で、以前はシンプルなデザインが好きだったものの、最近はかわいいデザインにも興味の幅が広がり、趣味嗜好が変化している今日この頃です！笑

また、日々の活動をお伝えする「ソーシャルスクエアから」でも紹介した通り SOCIALSQUARE の2号店が兵庫県西宮市にオープンします。それに合わせ私が1月から西宮へ転勤となりました。西宮は子どもが本当に多く、様々なカタチでごちゃまぜイベントができるのではないかと楽しみな場所です！

新しく0から作り上げていくのを、ワクワクしながら日々を過ごしているので、西宮からの発信もしていかなければと思います！

デザイナー / 小松知寛



表紙デザイン 比佐健太郎／イラストレーター

1977年生まれ。福島県いわき市出身・在住。2001年日本デザイナー学院卒業。

いわき市を拠点に、女性（人物）をモチーフとしたファッションイラストレーションと、動物植物や子供等をモチーフとした可愛いタッチのイラストレーションの2種類のタッチで、雑誌・広告・Webなど、国内外問わず様々な媒体で活動中。

Webサイト <http://www.kentarohisa-illustration.com>

GOCHAMAZETimes 2017冬号

発行日 | 2017年1月20日

発行人 | 北山剛

編集 | 小松理虔（ヘキレキ舎）

デザイン | 小松知寛

撮影 | 今泉俊昭

企画 | 松岡真満

発行 | 特定非営利活動法人ソーシャルデザインワークス

印刷 | 株式会社東海共同印刷